

# 南部町教育行政施策の点検・評価

前へ…、前へ…、ひたすら前へ…、

南部町の教育 一步前へ…！

## [添付資料]

- (1) 令和3年度南部町教育行政施策の概要
- (2) 令和3年度南部町教育行政施策に係る事業報告書（決算審査資料）
- (3) 令和3年度南部町の教育
- (4) 令和4年度南部町の教育（参考）

南部町教育委員会

[2022/8/25]

南部町教育行政点検評価委員会 委員名簿

氏 名	住 所	摘 要
原 田 雅 文	米子市錦町 2 丁目 258-4	学識経験者
川 口 有美子	鳥取市若葉台北 1-1-1	学識経験者
伊 藤 静 也	南部町天萬 611	学校教育
石 原 司 子	南部町円山 118	社会教育
毎 川 秀 巳	南部町馬佐良 423	社会教育
清 川 葉 月	南部町天萬 561	社会教育

【任 期】 令和 4 年 5 月 1 日から令和 6 年 4 月 30 日まで

## 令和3年度南部町教育行政施策の点検・評価

### I. 教育委員会の現況

#### (1) 教育委員（令和4年3月31日現在）

職名	氏名	性別	年齢	住所	就任年月日	年数
教育長	福田 範史	男	61歳	南部町東上 1010	H. 31. 04. 02	3年目
職務代行者	井上 憲司	男	74歳	南部町中 1092	H. 26. 12. 08	8年目
委員	板 真悟	男	45歳	米子市西福原 4-8-2	H. 27. 12. 09	7年目
委員	瀬田 啓道	男	47歳	南部町御内谷 1205	H. 28. 12. 08	6年目
委員	畠 美枝子	女	66歳	南部町清水川 167	H. 29. 12. 22	5年目

- (2) 会議 定例会議： 11回（議案数 41件・専決処分数 13件）  
臨時会議： 1回（議案数 1件・専決処分数 0件）  
教育委員協議会： 2回

- (3) 会議における委員提案及び報告 8件

- (4) 活動 学校訪問・学校行事等参加 8回  
町内行事・研修会等参加 1回

令和3年度は、一昨年からの新型コロナウイルスの感染が収まりを見せない状況の中で、With コロナ・After コロナを見据え、中止や延期も想定した上での制限緩和と安全対策レベルの維持とを並行させながら、様々な学習や教育活動、各種事業を展開していく年としてスタートしました。

本来は、平成30年度に策定した「第Ⅱ期教育振興基本計画」及び「教育に関する大綱」のもと、次のステップとなる第Ⅱ期の創世の段階と位置付けてスタートすべき段階であったことも考慮すると、教育行政の停滞があったことも事実であり、令和3年度は新しい時代に適応した教育を考えるタイミングであるとの認識に立った修正が求められた年であったと考えています。

年度当初より管理職会における教育長講話をはじめとする様々な機会をとらえて、学校教育や社会教育の現場においては、できる限りの新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、それぞれの直近の課題解決やSDGsに代表される新たな時代へ踏み出す「今やるべきこと、今だからできること」に知恵を出し合って取り組むよう、教育関係者に幅広く周知してきました。

活動や学習の実施に当たっては、目的や児童生徒、参加者、対象者の気持ちや状況を鑑みた上での実施となるよう方向性を示したものの、現実には、新型コロナウイルス感染症対策を第一に考え、中止や延期を余儀なくされたこともありました。

一方で、規模や範囲、方法等に工夫を凝らした学校教育では、楽しいはずの給食時間が

黙食となったり、運動会や体育祭の分割開催、修学旅行の行先が変更となったりということはありませんでしたが、規模や範囲、方法等に工夫を凝らして行われた日々の教育活動の結果、学習者の達成感や充実感、満足感など、これまで比較して高かったとの報告を多く受けています。

特筆すべきこととして社会教育では、生涯学習の拠点施設として「キナルなんぶ」が5月1日にグランドオープンを迎え、木を基調とした開放的な図書館ゾーン、オオサンショウウオの生態飼育展示をはじめとする「なんぶふれあい館」など、町内外から注目を集め、順調に滑り出しました。

冒頭に示したように、南部町教育委員会は「第Ⅱ期教育振興基本計画」及び「教育に関する大綱」の実現に向け、国や県の方向性を注視しつつ、教育の「不易」と「流行」を鑑み、取り組んで参りました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、数々の制限を受ける中、以下、重点施策として取り組んだことについて述べることにし、詳細については、教育方針の項目に従って記述した表をご覧ください。

なお、令和4年度においてはWithコロナの年として、南部町教育行政が充実できることを願い、令和3年度の教育行政の点検評価の総括といたします。

#### 【教育委員会事務局】

新型コロナウイルス感染症対策においては、教育行政が停滞することがないように、米子保健所の指示のもと防災監と常に協議の体制を維持しながら業務にあたった。

#### 【総務・学校教育課】

不登校については、未然防止や早期対応を進めるため、校区ごとのスクールソーシャルワーカーと学校の関わりを充実させ、福祉部局との連携も図りながら進めているものの、依然として本町教育の大きな課題である。

学力向上については、標準学力調査の結果分析において、学校と事務局が協働して分析し、課題を共有した。その結果をもとに年度内の授業で足りない部分を補うよう指示するとともに、指導主事が授業研究にも加わり、授業改善に取り組んだ。

一人1台端末の整備が完了し、「積極的に使えるときに使ってみる」という段階に至ったが、総じて児童生徒の適応力に比して、活用場面を設定する教師の指導力に差異があることが課題であり、授業での活用だけでなく個別最適な学習にも対応する各種アプリやeラーニング教材整備の必要性も明らかになった。また、教職員のICT活用スキルの向上に向けて情報提供のみならず授業に入り込んで支援を行うなど、ICT支援員に期待される役割は非常に大きい。

教職員の働き方改革については、業務の見直しや声掛け等を行ない以前に比べると長時間労働は改善されているものの、特定の教職員には引き続きの長時間労働が見受けられる。ただ、新型コロナウイルス感染症対策として、数々の行事や活動が中止となった

ことによる減少も事実であり、改めて行事のスクラップ&ビルドが求められる。

#### 【人権・社会教育課】

複合施設「キナルなんぶ」は、図書館機能、公民館機能を有する生涯学習の拠点施設かつ、町内外の交流による賑わいも創出するところとしてスタートし、1年間で177,000人、1日平均541人の利用者を数えたことから、その効果は絶大であると評価している。特に、平日の西伯小学校の児童、休日の町外居住者の利用の多さは予想以上である。

高校生サークル、新☆青年団の活動は多岐にわたり、様々な場面や場所でその姿を見ることができ、町での事業では欠くことのできない存在になりつつあるが、その一方でメンバーの主体性の育成や自立という点に今後の課題があると認識している。

人権教育については、3密回避という観点からのミカエル・セミナーや小地域での研修は中止もあったが、DVD視聴や人数制限など、方法や形態の工夫をして可能な範囲の実施とした。

文化財保護については、住民主体の法勝寺電車の100歳に向けた取り組みがスタートした。「キナルなんぶ」に飼育展示した特別天然記念物「オオサンショウウオ」については愛称もつくなど、保護啓発活動のシンボリック的存在になっている。

以上、学校教育と社会教育を両輪として、生涯学習社会の概念の元、コミュニティ・スクールを基盤に「地域とともに歩む学校づくり」を進めつつ、社会教育では、県内随一の活発な活動をしている社会教育委員の会に代表されるような様々な会議や審議会を中心に、まちづくり・人づくりに取り組んでいる。

## 【教育行政施策の点検・評価に関わる委員意見に対する教育長所見】

事前だけでなく、当日も多数のご質問やご意見、ご提言をいただいたことに感謝申し上げますとともに、南部町教育への強い期待や励ましと受け止め、一層の充実に努めてまいります。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って様々な教育活動が制限される状況の中、できる限りの感染防止策を講じた上で、規模を縮小したり、時期を変更したりしながら、学びを止めない工夫をしてまいりました。

教育長所見では、教育方針をもとに本委員会でご質問やご意見を多くいただいた部分を中心に記述させていただき、報告書ではすべての項目についてお答えしております。

### 【学校教育】

- 中学校区単位のコミュニティ・スクールの取り組みの充実を図っているものの、コロナの影響により様々な活動や会議が制限されてきた状況から、今一度コミュニティ・スクールのねらいや活動に関して、「地域や保護者への情報発信」や「活動の見える化」を図ることの必要性についてご意見をいただいた。
- 教育におけるICT活用が加速し、その効果やポテンシャルは非常に高いものがあるが、ともすれば使うこと自体が目的になったり、教育格差に繋がったりするという懸念もあり、活用促進にあたっては情報モラルの醸成などが必要であることを確認した。
- 不登校の状況は、改善や学校復帰もあった一方で、全体として増加傾向にあることから、単純な要因分析は難しいものの、学校とスクールソーシャルワーカーが協働し、寄り添いや保護者支援により個別対応しているところであるが、未然防止だけでなく「登校」そのものの価値観、あるいはより大きな学びのステージについて、ご意見をいただいた。
- 幼保小の連携については、すでにあるアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムに加えて、国の示した架け橋プログラム等、引き続き保育の質の向上を図っていくための研修や指導を充実させていくことが重要であることを再確認した。
- 中学校部活動については国の提言が出されたが、今後の対応については、「文化部も含めた休日の部活動の地域移行」「社会教育での地域活動という観点での実施」といった複数の視点から、県のガイドライン等を踏まえた検討をしていく必要があることを確認した。

### 【社会教育】

- 訪問型家庭教育支援（アウトリーチ型家庭教育支援）は2年目を迎え、確実に大きな成果を生むと確信しているが、今後に向けて、地域で家庭を支えるという視点から民生委員や主任児童委員との連携や協働を図っていく必要性についてご意見をいただいた。

- 図書館については利用者も増加し、よい評価をいただいていると認識しているが、今後も図書館運営協議会に諮りながら二つの図書館それぞれの特色を活かし、これからの図書館に求められる新しい姿の実現に取り組んでいくことについて確認した。
- 高校生サークルや新☆青年団の地域活動は広がりを見せてきており、自主自立への道筋をつけるために、今後は主体的活動の割合を増やしていくことを確認した。一方で、子ども会育成連絡協議会や地域振興協議会を単位とする小・中学生の組織化(団体育成)が、町全体の構想を考える中で今後解決すべき課題であることを再確認した。
- 金田瓦窯跡や法勝寺電車、オオサンショウウオをはじめとする里地里山の自然、祐生出会いの館等、文化財の保護については、専門性を有する職員の配置は難しいが、文化財保護審議会での指導や助言のもとに、その保存と活用を進めていくことについて再確認した。
- 町民の健康増進は行政の責務であり、町全体のスポーツ推進の基幹である南部町総合型地域スポーツクラブ「スポ net なんぶ」への事業委託や協働を通じて取り組んでいくことを確認した。さらに、中学校の部活動のあり方については、国の示している休日の部活動の地域移行に関する提言をもとに進めていく、しくみづくりや指導者の人材確保等の検討事項についてご意見をいただいた。
- 人権が大黒柱のまちづくりを進めており、新たな総合計画の策定と並行して差別解消三法の周知徹底に取り組んでいくことを確認した。人権教育についても、引き続き、家庭教育と連携を図りつつ学校教育と社会教育の両輪として、南部町15年人権プログラム（ミカエルプログラム）を推進していくことを再確認した。

#### 【事務局】

- 新型コロナウイルス感染症が県内でも拡大している状況を鑑み、学校教育だけでなく社会教育の場面でも安心安全な教育環境の確保に努めるとともに、各種事業やイベントについては適切な判断・情報の速やかな伝達に努めていくことを確認した。
- 多様な教育課題に取り組み、時代や社会の変化に対応するため、社会教育主事や指導主事、司書や学芸員等、教育的専門職の配置・育成に継続して努めていくことを確認した。